

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	平成 30 年 8 月 22 日	担当部署	産業観光部 観光振興課 施設経営管理室
-------	------------------	------	---------------------

※以下は平成 30 年 3 月 31 日現在の内容です。

2 法人等の概要

法人等名称	J-ホールディングス 株式会社				
代表者名	代表取締役 早川 寿男				
	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤				
	<input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市派遣 <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他				
所在地	新潟県上越市西本町四丁目 18 番 12 号				
設立年月日	平成 25 年 9 月 3 日	資本金	100,000 千円	市出資割合	80.2%
設立目的	次の事業を営む会社の株式又は持分を所有することにより、当該会社の事業活動を支配又は管理すること及びこれに付帯又は関連する事業を営むことを目的とする。 1 温浴施設、宿泊施設、スキー場施設その他附帯施設の経営及び管理運営に関する業務 2 物品、特産品等の製造及び販売並びに委託販売に関する業務 3 各種イベント、事業及び物品の企画立案、広告宣伝並びに調査研究に関する業務 4 不動産の売買、賃貸借管理及びその仲介に関する業務 5 保険代理業 6 旅行業・旅行代理業 7 上越市からの受託事業に関する業務 8 その他付帯関連する一切の業務				

3 組織

(単位：人)

		理事・ 取締役	監事・ 監査役	計	内訳			
					プロパー	市派遣	市兼務	その他
役員	常勤	1	—	1	1			
	非常勤	7	2	9				9
	計	8	2	10	1			9
職員	正職員	—	—	6	6			
	臨時職員	—	—	0				
	パート職員等	—	—	3	3			
	計	—	—	9	9			

4 主な事業

(1) 事業会社 (7 社) の経営管理及び経営指導
(2) 上越妙高駅 SAKURA プラザ内の軽飲食店 (えちご食処 7つのおもてなし) の運営
(3)
(4)
(5)

5 事業実績（概要）

【第5期（平成29年度）の経営状況】

- ・ 第5期の営業収益（売上高）は、前期との比較で、5,989千円の減（10.5%の減）の51,234千円となりました。上越妙高駅「えちご食処 7つのおもてなし」（通称：7つ屋）の営業収益（売上高）はほぼ前年並みとなった一方、本来業務である事業子会社からの経営指導料収入がなかったことにより、全体としての営業収益（売上高）が減少しました。
- ・ 営業費用は、7つ屋の原価率が改善したことや、経費削減に取り組んだことにより、前期との比較で1,504千円の減（2.1%の減）の68,555千円となりました。
- ・ この結果、第5期の当期純利益は△16,019千円となり、平成30年3月末の欠損金は59,061千円となりました。

【第5期の主な取組内容】

- ・ 第5期は、グループ戦略第3段階の3年目に当たり、前期に引き続き、第3段階の目標である「全社黒字均衡を実現する」ことを目標として、「さらなる品質アップ」と「営業の拡大」を重点施策として取り組みました。

取組項目	主な内容
① さらなる品質アップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフミーティングを継続し、各社社員の気力をアップ ・ 施設管理担当者の意見交換会を開催し、施設の適正な管理に努める ・ 社員の相互間派遣による接客等の研修を実施
② 営業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業担当者会議を開催し、取組・目標の管理を徹底 ・ 当社を含め8社共通の広告掲載、SNS等の活用を研究 ・ 各社の地元顧客の開拓を強化 ・ 経済産業省の「おもてなし規格認証制度」を取得し、サービスレベルの見える化への取組を実施
③ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不芳社、不芳部門への支援 ・ 上越妙高駅「えちご食処 7つのおもてなし」（通称7つ屋）では、徹底した原価管理・経費削減を行い、収益改善に努める <p style="text-align: right;">など</p>

【第5期の部門別実績】

部門名	区分	第3期 (平成27年度)	第4期 (平成28年度)	第5期 (平成29年度)
本社	売上高	15,501千円	8,057千円	2,067千円
	営業利益	△7,716千円	△13,724千円	△18,693千円
7つ屋	売上高	55,468千円	49,165千円	49,167千円
	営業利益	4,248千円	858千円	1,371千円
合計（※）	売上高	70,970千円	57,223千円	51,234千円
	営業利益	△3,469千円	△12,866千円	△17,321千円

※ 端数処理の都合上、合計額が合致しない場合があります。

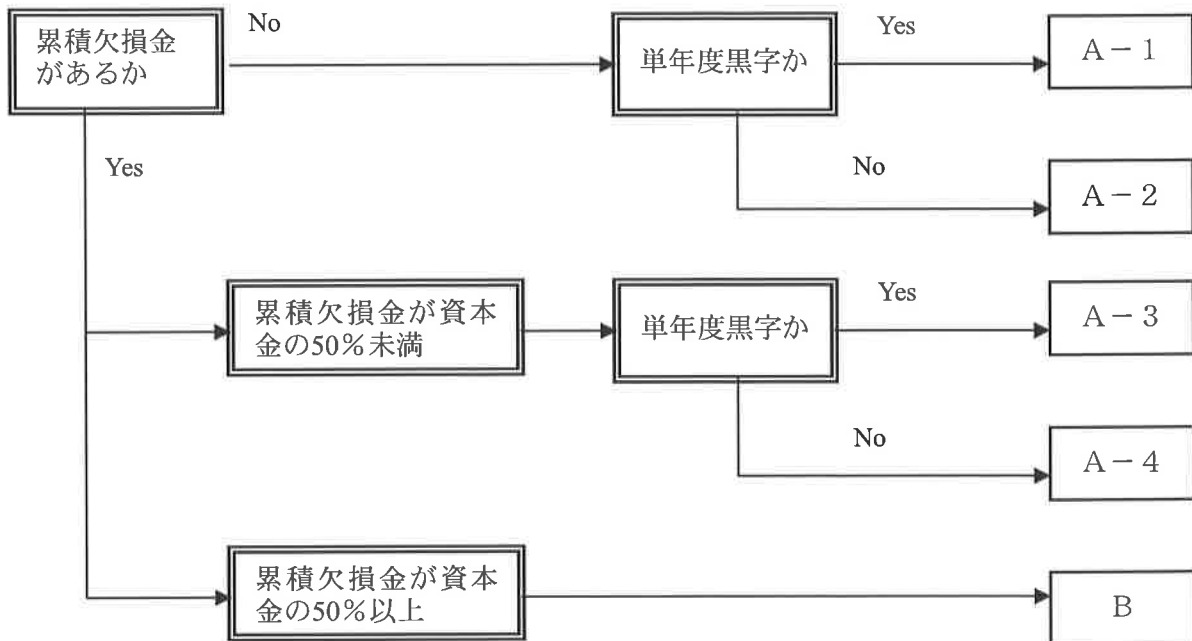
6 財務状況

(単位：千円)

項 目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
		自平成27年4月1日 至平成28年3月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日	自平成29年4月1日 至平成30年3月31日	
損益計算書	営業収益（売上高）	70,970	57,223	51,234	
	営業費用	74,439	70,089	68,555	
	売上原価	22,906	20,675	19,558	
	一般管理費・販売費	51,533	49,414	48,997	
	営業利益	△3,469	△12,866	△17,321	
	営業外収益	675	1,082	1,608	
	営業外費用	23	28	16	
	経常利益	△2,817	△11,812	△15,729	
	特別利益	0	0	0	
	特別損失	0	0	0	
	税引前当期純利益	△2,817	△11,812	△15,729	
	法人税等	292	290	290	
	当期純利益	△3,109	△12,102	△16,019	
項 目		平成28年3月31日現在	平成29年3月31日現在	平成30年3月31日現在	備考
貸借対照表	資 産	382,596	368,514	358,001	
	負 債	6,349	4,369	9,875	
	純資産	376,247	364,145	348,126	
	資本金	100,000	100,000	100,000	
	剰余金・欠損金	△30,940	△43,042	△59,061	
	その他	307,187	307,187	307,187	

7 経営状況の予備的診断

予備的診断フロー



評価	A-4
----	-----

	評価基準	備考
A-1	累積欠損金がなく、単年度黒字の場合	引き続き経営努力を行う。
A-2	累積欠損金がなく、単年度赤字の場合	複数年の経過を注視しながら引き続き経営努力を行う。
A-3	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度黒字の場合	経営改善の努力を要する。
A-4	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度赤字の場合	経営改善の一層の努力を要する。
B	累積欠損金が資本金の50%以上の場合	事業の見直し等も含めた抜本的な経営改善を要する。

※ この評価に関連する特殊な事情又は要因など特記すべき事項

なし

8 市の関与の状況

(1) 市の委託額

(単位：千円)

内訳		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	備考
①	観光施設経営改善事業委託	6,350	0	0	
②	直江津屋台会館受付・清掃業務委託	653	653	653	
計		7,003	653	653	

(2) 市の財政援助額

(単位：千円)

内訳		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	備考
①	補助金（助成金）	0	0	0	
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他（出資金）	0	0	0	
計		0	0	0	

9 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

営業収益（売上高）は 60,004 千円、経常利益△7,175 千円を見込み、次の取組を推進していく。
 加えて、全社黒字化に向けては、各社の事業計画の進捗管理を徹底し、課題改善を見据えた経営指導を行うとともに、具体的な方策を示していく。

また、上越市立水族博物館「うみがたり」との連携による顧客獲得を図っていく。

(1) サービス向上

- ・ スタッフミーティングの活性化や営業会議の強化を図り、サービス品質を充実

(2) 営業の拡大

- ・ 市内企業の福利厚生施設として、J-ホールディングスグループ共通利用券購入企業の新規開拓を推進
- ・ 季節感やお客様ニーズに合ったメニュー開発、イベントを企画

(3) 不芳社への支援

- ・ 事業計画に基づく進捗管理を徹底するとともに、緊密な連携により経営改善を図る。

(2) 中長期経営計画

あり

J－ホールディングスグループ経営状況一覧

1 年度経営・財務状況

(単位：千円)

法人名	項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
株式会社 キュービットパレイ (注) 各年度の事業期間 平成27年度 当年5月～翌年4月 平成28年度 当年5月～翌年3月 (11か月) 平成29年度 当年4月～翌年3月	売上高	510,566	477,598	499,573
	営業利益	△ 17,104	△ 2,684	△ 17,970
	当期損益	△ 14,419	△ 58	△ 17,509
	資産	158,607	209,881	218,747
	負債	121,480	172,813	199,188
	純資産	37,126	37,068	19,559
柿崎総合開発 株式会社	売上高	132,742	117,940	115,331
	営業利益	△ 4,407	△ 12,855	△ 18,526
	当期損益	△ 3,767	△ 11,292	△ 17,575
	資産	111,955	101,429	84,205
	負債	8,190	8,956	9,307
	純資産	103,765	92,472	74,898
株式会社 大潟地域活性化センター	売上高	118,288	115,349	115,954
	営業利益	175	204	△ 278
	当期損益	381	530	14
	資産	10,161	10,597	11,438
	負債	7,085	6,990	7,817
	純資産	3,076	3,607	3,621
株式会社 ゆったりの郷	売上高	163,791	157,344	161,347
	営業利益	△ 662	△ 1,064	△ 1,580
	当期損益	746	648	118
	資産	50,555	48,848	50,901
	負債	16,767	14,412	16,348
	純資産	33,788	34,436	34,553
黒倉ふるさと振興 株式会社	売上高	78,044	75,066	73,272
	営業利益	△ 1,901	△ 6,910	△ 4,175
	当期損益	△ 845	△ 5,662	△ 3,671
	資産	36,314	30,433	26,784
	負債	4,544	4,325	4,347
	純資産	31,770	26,108	22,437
三和振興 株式会社 (注) 各年度の事業期間 平成27年度 当年2月～翌年1月 平成28年度 当年2月～翌年1月 平成29年度 当年4月～翌年3月	売上高	117,178	111,424	99,961
	営業利益	396	1,316	△ 7,011
	当期損益	229	1,457	△ 6,553
	資産	13,394	15,556	9,808
	負債	10,394	11,100	14,634
	純資産	2,999	4,456	△ 4,826
株式会社 ゆめ企画名立 (注) 各年度の事業期間 平成27年度 前年10月～当年9月 平成28年度 前年10月～当年9月 平成29年度 当年4月～翌年3月	売上高	600,310	590,112	580,312
	営業利益	13,421	△ 33,873	3,868
	当期損益	10,414	107,012	3,917
	資産	155,119	282,712	188,222
	負債	138,964	159,545	83,447
	純資産	16,155	123,167	104,775
《参考値》 事業会社7社合計	売上高	1,720,919	1,644,833	1,645,750
	営業利益	△ 10,084	△ 55,867	△ 45,671
	当期損益	△ 7,263	92,635	△ 41,258
	資産	536,104	699,455	590,105
	負債	307,425	378,142	335,087
	純資産	228,679	321,314	255,018

※ 平成29年度から各社の事業年度を、当年4月～翌年3月の12か月間に統一。

※ 平成27、28年度の合計値は、各社の事業年度が統一されていないため、参考値としての比較である。

※ 端数処理の都合上、合計額が合致しない場合がある。

2 施設の主な利用状況

(単位：人)

法人名	施設名	項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
株式会社 キューピットバレイ	雪だるま高原	センターハウス	127,100	118,300	117,000
		雪の湯	68,241	60,027	59,027
		久比岐野	5,839	5,887	5,059
柿崎総合開発 株式会社	柿崎マリンホテル ハマナス	宿泊	6,188	5,802	5,946
		風呂	12,412	13,637	14,412
		宴会	9,874	7,063	6,491
		レストラン	5,104	7,423	8,436
		貸室	780	667	817
株式会社 大潟地域活性化センター	大潟健康 スポーツプラザ 鵜の浜人魚館	風呂	68,790	66,707	65,412
		プール	17,236	20,051	19,894
		共通	6,355	5,551	4,933
株式会社 ゆったりの郷	吉川 ゆったりの郷	風呂	77,453	74,473	79,245
		レストラン	45,512	48,509	52,404
黒倉ふるさと振興 株式会社	板倉保養センター やすらぎ荘	宿泊	1,762	1,617	1,390
		風呂	21,950	24,261	24,511
		宴会	4,633	4,503	4,244
		貸室	1,141	1,027	835
三和振興 株式会社	三和ネイチャー リングホテル 米本陣	宿泊	4,660	4,918	4,189
		風呂	6,677	7,404	7,495
		宴会	8,063	7,981	7,373
		レストラン	2,777	2,673	2,711
株式会社 ゆめ企画名立	うみてらす名立	宿泊	11,358	10,730	11,215
		日帰り	218,430	192,215	188,144
		風呂	98,556	125,033	123,817
		レストラン	46,006	47,642	50,454

3 経営状況の概要

法人名	直近期の経営状況及び次期計画など
株式会社 キューピットバレイ	<ul style="list-style-type: none"> 大雪等による利用客の減少が響き、17,509千円の単年度赤字を計上 前期に引き続き、他社と業務協力による新体制の下、経営改善に取り組む
柿崎総合開発 株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊や宴会の利用客減少に伴う売上減少により、単年度赤字を計上 「会社再生3か年計画」を策定し、経営の安定化を図る
株式会社 大潟地域活性化センター	<ul style="list-style-type: none"> 飲食部門の増収等により4期連続で単年度黒字を計上 施設の魅力のアピールに加え、飲食部門を強化し、売上拡大を図る
株式会社 ゆったりの郷	<ul style="list-style-type: none"> 社員全員の営業努力により12期連続で単年度黒字を計上 「親切・丁寧・お声がけ」をモットーに管理運営に尽力する
黒倉ふるさと振興 株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊や宴会の利用客減少に伴う売上減少により、単年度赤字を計上 地域との連携による各種イベントを開催し、売上拡大を図る
三和振興 株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 食中毒発生に伴う飲食売上等の減少により、単年度赤字を計上 新たなプランを構築するとともに、信頼回復に努め、経営安定を図る
株式会社 ゆめ企画名立	<ul style="list-style-type: none"> 営業等スタッフの努力が実り、単年度黒字を計上 「観光サービス業における御用聞き」をスローガンに顧客獲得に取り組む

(付属書類)

報告事項

- (1) 第5期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）事業報告、計算書類並びに監査役の計算書類監査結果報告の件

事業報告

(平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで)

I. 当社の状況

市内経済は全体として回復傾向にあるものの、小売業やサービス業の小規模な事業者を中心に未だ回復が実感できない状況にあります。また、雇用においては、求人数が増加傾向にある一方、求職者数が減少傾向にあり、人手不足の状況になっています。

上越市の平成28年3月31日現在の人口は、196,306人であったものが平成30年3月31日では、194,711人となり1,595人の減少となりました。

この中であって、当社ならびに当社グループ7社をめぐる環境も、高齢化の進展や既存客の減少、法要宴会の激減、さらには食材価格や今冬期間の電気・燃料費の高止まりなど、より一層厳しくなっております。各社の社員の高齢化にも課題があり、人員確保も大変厳しい状況となっています。

1. 当社の活動

当社の代表取締役が交代し、これまでの活動方針を継承しつつ、グループ会社に対して、経営指導を通じ、その経営改善を図ることとあります。具体的には、会社の原点（地元の想い）とスタッフ重視の2点に立脚し、グループ全体へのアドバイスと個社別指導を通じて、グループ会社の経営改善を推進してまいりました。

(1) 当社の活動実績

第5期は、当社のグループ戦略第3段階の3年目にあたり、目標は「全社黒字均衡を実現する」でありましたが、総体的に売上が伸び悩み、結果を出せない状況となりました。重点施策で掲げた①さらなる品質アップ、②営業の拡大については、個社別課題に取り組み個別に改善策を講じ、対応してまいりました。

また、新たな取り組みとして、大手企業の社員に対する福利厚生施設として活用頂ける契約を締結し、グループ各社共通利用券2,000枚の発行をいたしました。

①さらなる品質アップ

これまで同様各社において継続したスタッフ・ミーティングが行われ、社員の気力アップにつながっているものと思われます。研修面では、グループ7社の施設管理を担う担当者の意見交換会を開催し、修繕等で上越市との手続き手順について確認すると共に、日頃からの問題点を話合いました。マリンホテルハマナスでは、社員の研修を妙高市休暇村に出向いてサービスマニュアルに沿った実践的な研修を行いました。また、ホテル米本陣、やすらぎ荘の繁忙日にうみてらす名立及び7つ屋のスタッフを派遣し、宴会サービスを通じ他社の接客、配膳等について学びました。

②営業の拡大

a. 営業力のアップ

月1回の営業会議及び経営会議を開催し、当月の取組み、次月の目標等について話し合いを行い、できることから取り組みました。具体的には、グループ各社共通の販売商品（干物ギフト）の開発、県外営業に出た際の7社の売り込みや、限られた人員においてそれぞれの地域の有力者にお声がけをさせて頂き啓発に努めました。また、個人・会社を問わず、忘・新年会の売り込みを行いました。

b. 告知

共同告知として、当社を含め8社共通の広告掲載を行いました。また、フェイスブック等の確認、SNSの活用研究も行いました。

c. 顧客拡大

各区の各種組織団体を調査し、個社別に地元顧客の開拓を常日頃から行うことに心がけました。また、取引先の業者を対象とするイベントや地域の方、応援隊様からのご支援ご協力をいただきました。

d. サービスの向上

経済産業省によるおもてなし規格認証制度の認定を取得し、当グループ全社の社員がサービスレベルの見える化に取り組みお客様へのアピールにつなげました。また、施設賠償責任保険の全社統一を図りました。

③不芳社・不芳部門への支援

不芳社・不芳部門につきましては、個社別に販管費の分析を行い経費の削減に取り組みました。これまで行っていた各関係団体に対し、グループ無料入浴券や利用券を発行していましたが、効果検証を行った結果、中止しました。

- ④上越妙高駅「えちご食処 7つのおもてなし」（通称 7つ屋）は、前年28年度73,493人の客数が29年度67,506人となり5,987人の減少となりましたが売上は、53,099,837円でほぼ前年同額にすることができました。第5期は、8月以降の徹底した販管費の削減とメニューの原価・販売価格の見直しを行った効果が表れたものと考えます。また、ご来店いただくお客様に対しグループ7社のパンフレットやキューピットバレイリフト券を置きPRに努めました。

2. 当社の損益状況

- (1) 第5期決算の売上は、予算比9,371千円減の51,233千円、前年度比では、5,991千円の減少となりました。

前年度比減少の要因は、当社プロパーでは、各社経営状況の悪化に伴い当初予定した経営指導料収入がなかったことであります。

- (2) 経費の販管費は、予算比16千円増の48,996千円で、前年度比418千円減少しました。
(3) 第5期経常利益は、△15,729千円、税後純利益は、△16,019千円となりました。

当社損益の状況（第5期）

（千円）

	第5期実績 当社合計	同予算比	同前年度比	部門別実績 当社プロパー	同左 7つ屋
売上	51,233	△ 9,371	△ 5,991	2,066	49,166
売上総利益	31,675	△ 7,879	△ 4,874	2,066	29,608
経費	48,996	1,216	△ 418	20,759	28,237
営業利益	△ 17,321	9,095	△ 4,455	△ 18,693	1,371
経常利益	△ 15,729	7,503	△ 3,918	△ 17,721	1,992

II. グループ会社の決算状況

平成30年3月31日を決算期とする各社の決算は下記の通りです。

表1 グループ会社の損益状況（決算日：平成30年3月末）

（千円）

会社名	売上高	当期純利益	備考
柿崎総合開発（株）	115,330	△ 17,574	
（株）大潟地域活性化センター	115,953	14	
（株）ゆったりの郷	161,347	117	
黒倉ふるさと振興（株）	73,272	△ 3,670	
（株）キューピットバレイ	499,573	△ 17,509	
三和振興（株）	99,960	△ 6,552	
（株）ゆめ企画名立	580,312	3,916	

以上の点から、7社の損益状況を申し上げますと、

（1）黒字会社

- （株）大潟地域活性化センター 4期連続黒字
- （株）ゆったりの郷 12期連続黒字
- （株）ゆめ企画名立 3期連続黒字

（2）赤字会社

- （株）キューピットバレイ 3期連続

赤字要因 12月15日にオープンし降雪も順調に推移し年末年始も例年並みの動きとなりましたが、1月下旬から2月上旬にかけて県内平野部を中心とする降雪が続き、来場動機が喪失されたのか県内ナンバー車両が2,000台の減少となり、日帰り客の入込数に大きく影響がありました。宿泊については、台湾ツアーが大きく伸び、昨年対比延泊数241%となりました。

- 柿崎総合開発（株） 3期連続

赤字要因 ホテル1室あたりの宿泊人員の減少や宴会需要の減少に加え、営業戦略、組織、人事、管理、厨房の在り方など多岐にわたる改善項目に対し万全ではありませんでした。

三和振興（株）

赤字要因 年度当初のノロウイルスによる食中毒事故で失った信頼を回復すべく地道にお客様に対して真摯な態度で接してきましたが、売上に大きく影響がでました。法要については、周忌法要の回数の減少と身内だけの少人数で営まれるため売上を増やすことが厳しい状況でした。

黒倉ふるさと振興（株） 3期連続

赤字要因 4月から8月までの上半期の売上は順調に推移したものの10月、11月の宴会、宿泊が伸び悩み年度末まで尾を引きました。経費については、4,263千円削減しました。

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
【流動資産】		【流動負債】	
現金	973,747	買掛金	1,498,407
小口現金	20,000	未払金	1,713,110
普通預金	27,477,440	預り金	634,848
売掛金	644,477	未払法人税等	290,000
貯蔵品	22,000	仮受金	5,172,550
未収入金	1,754,406	未払消費税等	566,100
流動資産合計	30,892,070	流動負債合計	9,875,015
		負債合計	9,875,015
【固定資産】		純 資 産 の 部	
【有形固定資産】		【株主資本】	
リース資産	8,480	【資本金】	100,000,000
建物	5,349,792	【資本剰余金】	
機械装置	4,443,856	資本準備金	50,000,000
工具器具備品	1,675,663	【その他資本剰余金】	257,187,224
一括減価償却資産	444,000	資本剰余金合計	307,187,224
有形固定資産合計	11,921,791		
【投資その他資産】		【利益剰余金】	
出資金	315,187,224	【その他利益剰余金】	
投資その他資産合計	315,187,224	繰越利益剰余金	△ 59,061,154
		その他利益剰余金合計	△ 59,061,154
		利益剰余金合計	△ 59,061,154
		株主資本合計	348,126,070
固定資産合計	327,109,015	純資産合計	348,126,070
資産合計	358,001,085	負債・純資産合計	358,001,085

損益計算書

自平成29年4月1日
至平成30年3月31日

(単位：円)

【売上高】	51,233,751
【売上原価】	
飲食仕入	13,280,574
その他仕入	63,519
MIJ仕入	6,214,260
合計	19,558,353
売上総利益	31,675,398
【販売費及び一般管理費】	48,996,726
営業損失	17,321,328
【営業外収益】	
受取利息	331
雑収入	1,607,949
【営業外費用】	
雑損失	16,077
経常損失	15,729,125
税引前当期純損失	15,729,125
法人税等	290,044
当期純損失	16,019,169

販売費及び一般管理費明細書

自平成29年4月1日
至平成30年3月31日

(単位：円)

役員報酬	6,834,000
給与手当	20,505,269
臨時社員給与	2,611,681
通勤手当	455,953
法定福利費	4,163,756
福利厚生費	228,721
旅費交通費	383,290
通信費	470,579
販売促進費	9,815
発送配達費	3,080
広告宣伝費	931,000
接待交際費	408,693
会議費	33,892
電気電力料	2,187,572
租税公課	15,850
新聞図書費	55,504
管理諸費	904,727
支払手数料	911,104
諸会費	16,200
外注費	198,334
衛生費	139,778
地代家賃	2,735,078
保険料	8,040
修繕費	70,300
消耗品費	1,687,856
減価償却費	3,017,383
雑費	9,271
合計	48,996,726

株主資本等変動計算書

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

(単位：円)

【株主資本】		
【資本金】	当期首残高及び当期末残高	100,000,000
【資本剰余金】		
資本準備金	当期首残高及び当期末残高	50,000,000
【その他資本剰余金】		
資本剰余金	当期首残高及び当期末残高	257,187,224
資本剰余金合計	当期首残高及び当期末残高	307,187,224
【利益剰余金】		
【その他利益剰余金】		
繰越利益剰余金	当期首残高	△ 43,041,985
	当期変動額 当期純損失	△ 16,019,169
	当期末残高	△ 59,061,154
利益剰余金合計	当期首残高	△ 43,041,985
	当期変動額	△ 16,019,169
	当期末残高	△ 59,061,154
株主資本合計	当期首残高	364,145,239
	当期変動額	△ 16,019,169
	当期末残高	348,126,070
純資産合計	当期首残高	364,145,239
	当期変動額	△ 16,019,169
	当期末残高	348,126,070

個 別 注 記 表

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

1. この計算書類は「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。
2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記
 - (1) 資産の評価基準及び評価方法
有価証券は総平均法による原価法を採用しています。
 - (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ①有形固定資産・・・法人税法に基づく定率法を採用しております。ただし、建物については定額法を採用し、平成 28 年 4 月 1 日以後に取得する建物付属設備及び構築物については定額法を採用することとしています。
 - (3) 引当金の計上基準
貸倒引当金・・・債権の貸倒による損失に備えるため、個々の債権の回収可能性を勘案して計上することとしています。
今期については、回収不能の恐れのある債権はありませんので、計上しておりません。
 - (4) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数、残存価額を 0 円とする定額法により処理しています。
 - (5) 消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

3. 貸借対照表に関する注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 10,880,377 円（リース資産を除きます）

4. 損益計算書に関する注記

- (1) 関係会社との取引高
営業収益 2,460,266 円 営業費用 2,083,203 円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前期末	当期増加	当期減少	当期末	摘要
【発行済株式】					
普通株式	1,023,503	0	0	1,023,503	
合 計	1,023,503	0	0	1,023,503	

6. 1 株当たり情報に関する注記

- (1) 1 株当たり純資産額 340 円 13 銭
- (2) 1 株当たり当期純利益 0 円

監 査 報 告 書

私ども監査役は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度における業務の執行を監査するため、会計帳簿及び重要な決算書類を閲覧し、計算書類について慎重な検討を加え、その他の必要と思われる監査手続きを実施した。

1. 貸借対照表及び損益計算書は、会社の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認める。
2. 株主資本等変動計算書の記載については、指摘すべき事項はない。

平成 30 年 5 月 30 日

監査役 荻谷賢一 

監査役 藤山作次 

(付属書類)

報告事項

(2) 第6期(自平成30年4月1日至平成31年3月31日)事業計画および収支計画の件

平成30年度事業計画

平成30年度も、環境は引き続き、高齢化の進展による既存客減少、節約志向の強まり、法要宴会低迷、さらには食材価格や電気料金の高止まりに加えて、人員不足など、より一層厳しい状況にあります。当期は、各社単年度事業計画書の進捗管理に力を入れ、中期経営計画に基づく課題の改善方向を見据えた経営指導に心がけ、営業会議において、具体的な方策を提示し各社の訪問を行います。また、グループとして効率化が図られるものは積極的に取り組みます。

本年は上越市立水族博物館「うみがたり」の開業に合わせた連携も行っていきます。

(1) サービスの向上

常日頃からの施設の点検・お客様の声に全社員が反応を示すべく、これまでも行っている、スタッフ・ミーティングの活性化や各社営業会議の強化を図り、サービスの品質を充実させてまいります。

(2) 営業の拡大

市内企業の福利厚生施設として、新規開拓を推進しグループ全体の売上の貢献を図ってまいります。また、季節感やお客様のニーズに合ったメニューの開発やイベントを計画し、賑わいのある施設づくりを目指します。また、情報発信として上越市ホームページに専用のバナーを用意し不特定多数のお客様が閲覧できるようにします。

(3) 不芳社への支援

第6期におきまして、赤字4社につきまして事業計画に基づく、月次の進捗管理を徹底し個別に緊密な連携をとり改善に向けた経営会議を行ってまいります。

①(株)キュービットバレイは、これまでスマイルリゾートとの業務協力による業務改善、集客戦略を継承し、通期の営業を強化するためさらなる集客に向けての新たなサービスの向上、商品の造成、安全・安心に心がけ、慢性的赤字経営体質の改善を図ることに注力してまいります。

②柿崎総合開発(株)は、「会社再生3か年計画」を作成し、初年度は大幅な赤字額の削減を図り、2年目はわずかでも黒字を、3年目には将来に向けて安定経営ができる水準の利益を目指し、具体的方策のもと3セクで発足した原点に立ち返り、地域の皆様に親しまれ必要とされる会社づくりを、社員全員が自覚し取り組みするよう支援いたします。

③黒倉ふるさと振興(株)は板倉保養センターの名称から福祉施設第一というイメージから脱却し、社員全員の発言型経営推進と経営力のアップを掲げ、上越妙高駅から近い宿泊施設であり、心和む自然に満ちた環境歴史を物語る「パワースポット」の温泉宿としてPRを強化してまいります。また、やすらぎ荘ファンクラブや地域との連携による各種イベントの開催を計画します。

- ④三和振興 (株)は、リピーターの方々の高齢化の進展で従来のような利用が見込めなくなりつつあり、さらには法要の回数も身内だけで営まれるなどなかなか売上を増やすことが厳しい状況にあり、いかに売上を維持していくかが課題と考え、利用プランの構築、一般管理費の精査、社員に対する月例報告による売上を意識した体制作りを目指し、前年の食中毒事故の地道な信頼回復に取り組みます。

平成 30 年度収支計画

平成 30 年度の売上は、前年度比 600 千円減の 60,004 千円であります。内訳は、当社プロパーでは、経営指導料収入 10,000 千円を見込み、10,605 千円、7 つ屋では、49,400 千円であります。

経費は、前年度比 84 千円増の 49,080 千円であり、その結果、経常損失は、7,175 千円であり、これは、前年度比で 1,051 千円の改善を見込んであります。

第 6 期 (平成 30 年度) 収支計画

(千円)

	第 6 期 平成 30 年度予算	同左 前年度比増減	部門別 当社プロパー	同左 7 つ屋
売上	60,004	△ 599	10,605	49,400
売上総利益	41,905	2,351	10,605	31,300
経費	49,080	1,300	21,180	27,900
営業利益	△ 7,175	1,051	△ 10,575	3,400
経常利益	△ 7,175	1,051	△ 10,575	3,400